

(3) 鳥栖西中学校区小・中学校養護教諭連携研修の考察

視点① 実践期養護教諭は授業づくりに関わることを通して、学校保健における実践を振り返り、学校の課題解決に必要な知識・技能を習得し、学びの意欲を高めることができたか。

ア 実践期養護教諭へのアンケートから見る研修の効果

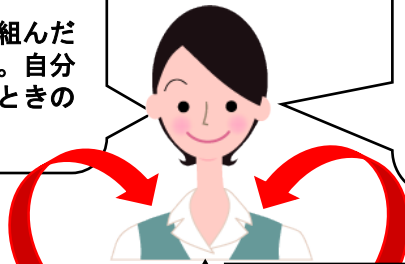
新規採用養護教諭

養護教諭が学級担任とTTを組んだ授業を初めて見る事ができた。自分が学級担任の先生と授業をするときの参考になった。勉強になった。

実践期養護教諭

3年経験養護教諭

養護教諭が授業に参加することで、学級担任や子供とコミュニケーションが取れるようになり、子供たちの健康への意識を変える力になったと思った。もっと、授業を計画していきたい。



第2回鳥栖西中学校区小・中学校養護教諭連携研修
平成29年8月9日 15:00~17:00 鳥栖西中学校

授業参観
平成29年9月1日 5校時 基山小学校

参加者 貢献期養護教諭 1名
充実期養護教諭 1名
実践期養護教諭 2名
佐賀県教育センター所員 2名
(助言者)

鳥栖西中校区養護教諭
貢献期養護教諭 2名・充実期養護教諭 1名
実践期養護教諭 2名

鳥栖・基山地区養護教諭研究会合同研修会 20名
佐賀県教育センター所員 2名 (授業者・助言者)

研修内容例 「保健教育」

貢献期養護教諭から

「養護教諭が授業に取り組む良さ」
TTの中でT1やT2として授業を行うことで、児童生徒に直接的に専門的な知識を理解させ、保健室での個別指導や学校全体への指導につなぐことができますよ。

授業をするのは、難しい!

実践期養護教諭

- ・何をどのように教えるとよいの?
- ・授業をするために、教材の工夫が知りたい。

教育センターから授業提示

第5学年「心の健康」体育科(保健領域)

児童が自分や友達との毎日の生活を通して、自己の成長に気付き、不安や悩みをどのように乗り越えればよいかや、心を発達させていくにはどのようにしたらよいかを考える。



実践期養護教諭は、自己課題として、授業を計画したり、実践したりする力量が不足していることを挙げていました。

充実期養護教諭が提案する授業を参観した後、実践期養護教諭は、「養護教諭が取り組む授業について、知識を深めることができた」「養護教諭が学級担任とティーム・ティーチングによる授業

を初めて見ることができ、自分が学級担任の先生と授業を行うときの参考になった」「こうした授業を参観する機会に積極的に参加したい」と回答しています。また、「この授業を参考にして、子供の健康課題を解決するために授業に取り組みたい」とも回答しており、授業を計画したり、実践したりすることに自信を付けるようになってきたことが分かります。

また、実践期養護教諭は、実際に11月に授業実践にも取り組みました。そこでは、生徒の実態を把握するためにアンケートを実施し、その結果を基に授業計画を立てました。そして、授業づくりに参加して学んだことを生かし、発問や板書の仕方、ワークシート等を工夫しました。授業実践後、実践期養護教諭は、「目の前の子供の実態から健康課題を見取ることや、授業づくりに関わる基本的な内容について学んだことを生かすことができた」と回答しており、充実期養護教諭が提案する授業に実践期養護教諭が授業づくりから参加したことで、授業を計画したり、実践したりできる力を身に付けることができたと考えます。

これらのことから、実践期養護教諭は、授業実践によって学校の課題に実際に対応できる知識・技能を習得し、授業づくりに対する学びの意欲を高めることができたと考えます。

イ 授業研究会への参加者アンケートに見る研修の効果

資料 1 は、授業研究会後に行ったアンケートの結果です。このように、養護教諭が取り組む保健指導の方法の 1 つとして、「授業実践を行いたい」と考えるようになった実践期養護教諭が多いことが分かります。

また、「養護教諭が取り組む授業についての公開授業や授業研究会に、機会があればまた参加してみようと思いませんか」との質問に、91%の実践期養護教諭が「思う」または「だいたい思う」と答えています（図 1）。

このように、メンター方式の考え方を取り入れた鳥栖西中学校区小・中学校養護教諭連携研修内容として、充実期養護教諭が提案する授業は、実践期養護教諭が、これまで学校での実践が少なかった保健教育について考える契機となりました。また、授業を実際に参観し、貢献期・充実期・実践期養護教諭が保健指導に対する様々な考え方を交流したことで、実践期養護教諭は、新たな知識を習得し、学校で保健指導を実施する意欲を高めることができたと言えます。

授業研究会アンケート（感想の記述から）	
・授業に参加することで、学級担任や子供たちとのコミュニケーションがとれるようになるし、子供たちの意識を変える大きな力になることがよく分かりました。	
・授業に取り組みたいとは常々思っていますが、学級担任の先生と打合せをする時間の余裕や心の余裕がないというのが本音です。しかし、今回の授業で養護教諭だからこそできる授業があると改めて感じる事ができました。	
・これまで養護教諭が取り組む授業として、保健指導に取組んだことはありませんでした。今日の授業を参観し、まず、T2で授業に取り組もうと思います。	

資料 1 授業研究会アンケート（感想の記述から）

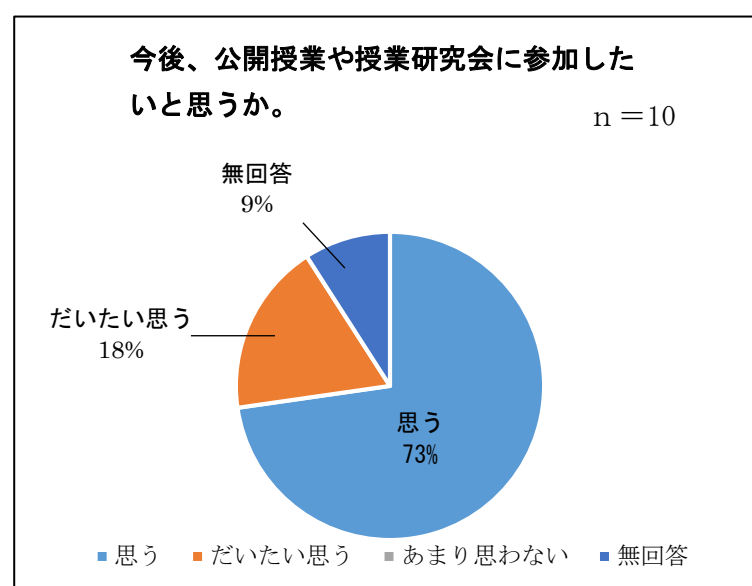
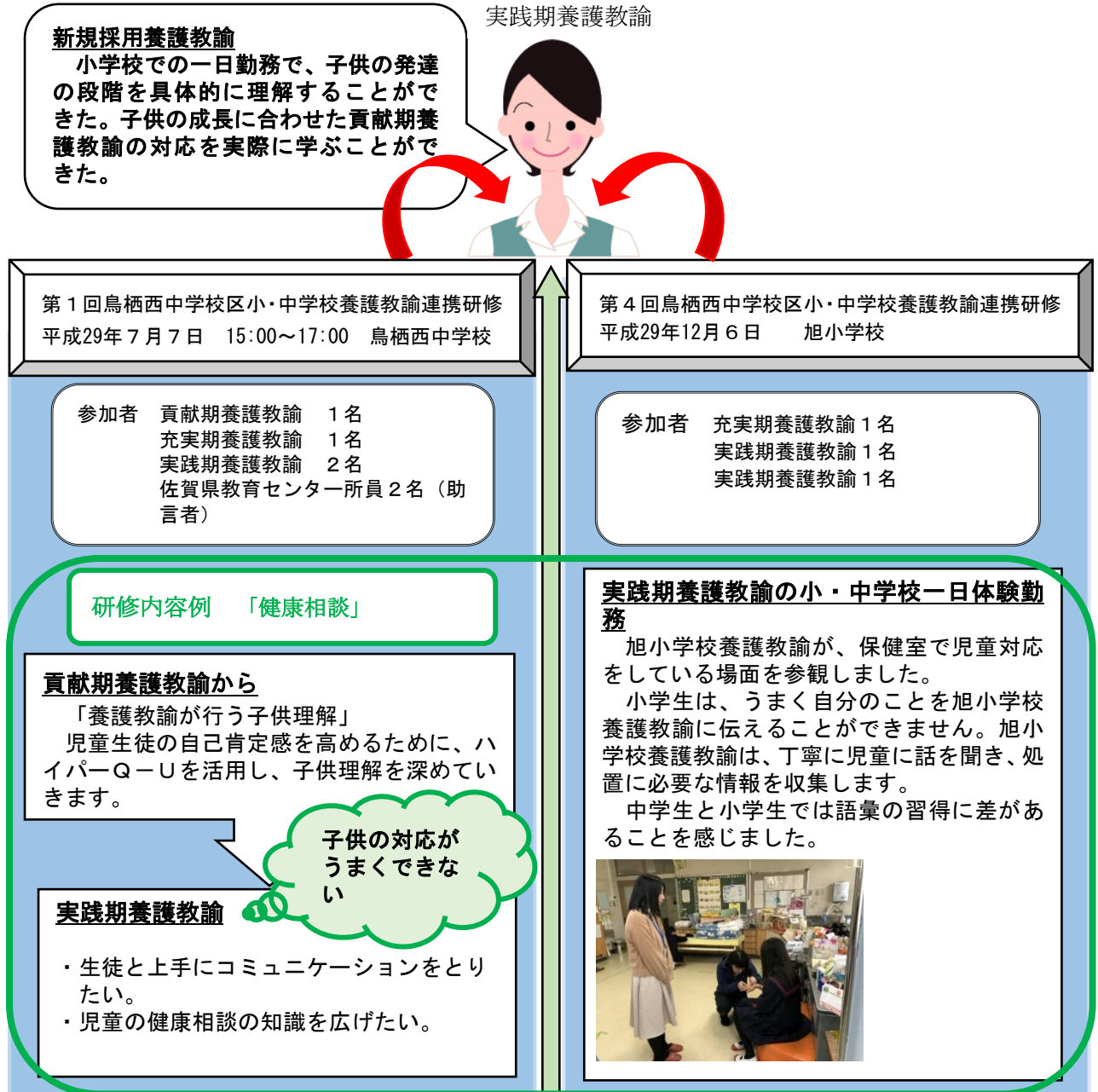


図 1 実践期養護教諭の参加意欲

視点② メンター方式の考え方を取り入れた小・中学校養護教諭連携研修を通して、実践期養護教諭が実践力を向上できる研修と体制づくりができたか。

ア 実践期養護教諭一日体験勤務から見る効果



健康相談とは、児童生徒の心身の健康に関する問題について関係者が連携し、児童生徒の保護者等に対して相談等を通して解決を図り、学校生活によりよく適応していくことができるように支援をしていくことです。また、健康相談は、単に個々の児童生徒の健康管理に留まらず、自己解決能力を育むなど児童生徒の健全な発育発達に大きく寄与しており、養護教諭の職務の中でも大きな位置を占めるものです。さらに、養護教諭は、児童生徒の心身の健康問題を発見しやすい立場にあることから、いじめや児童虐待などの早期発見、早期対応に果たす役割や、健康相談や保健指導の必要性の判断、専門医受診の必要性の判断、医療機関などの地域の関係機関等との連携におけるコーディネーターの

役割などが求められます。

実践期養護教諭は、児童生徒との関わりの中で児童生徒を理解する方法を習得し、健康相談の能力を向上させる必要があります。そこで、鳥栖西中学校の実践期養護教諭は、校区内の小学校で一日体験勤務を行い、児童生徒との関わりを実際に学ぶことを通して、健康相談の能力の向上を目指しました。

小学校で一日体験勤務を行った実践期養護教諭は、「小学校で勤務することで、小学生の心身の発達の段階を具体的に理解することができた。研修会で話が出た中 1 ギャップが起こる理由について考え、中学校の養護教諭として生徒への関わりを考えるヒントになった」と感想を述べていました。小学生の様子を知ること、中学生への対応の仕方を学ぶことができたと考えられます。また、実践期養護教諭が、貢献期・充実期養護教諭から知識や技能の伝授を受けるばかりではなく、実践期養護教諭自身が体験を通して児童生徒の心身の様子を理解できたことは、非常に貴重だったと考えます。

また、鳥栖西中学校実践期養護教諭は「小学校の先生方の児童対応の様子を見て、自分のことをうまく伝えられない子供に、丁寧に話を聞くことの大切さを感じた。一方、小学校の先生は、一日中、教室にいたので、子供対応で連絡をするときは、どのように行われるのか、連携の時間確保が難しいのではないかと感じた」との感想を述べていました。子供への対応について、新たな気づきがあったことが分かります。さらに、実践期養護教諭は、児童と学級担任の様子や、養護教諭との関わり方が小・中学校で違うことを知り、学校の健康課題を解決する際の参考になったと考えられます。

これらのことから一日体験勤務は、実践期養護教諭が、これまで得た知識・技能と貢献期・充実期養護教諭が行う児童生徒との望ましい関わり方や環境作りの実際とをつなぎながら、健康相談を行う実践力を高める研修内容として有効であったと考えます。

イ メンター方式の考え方を取り入れた鳥栖西中学校区小・中学校連携研修の効果

研修に参加した養護教諭に、研修の効果について聞き取りを行いました(資料 2)。

実践期養護教諭	貢献期・充実期養護教諭
<ul style="list-style-type: none"> ・ 充実期養護教諭が行う授業の参観や中学校区の学校で一日体験勤務をしたことは、分からないところを具体的に教えてもらったので、よく分かった。 ・ 先輩の姿からたくさんを学ぶことができている。 ・ 研修で学んだことをすぐに実践できたので、自信につながりました。 ・ 研修で、先輩の先生から他者評価をしてもらうことで、自分の実践を振り返ることができました。これからも勉強しようと思う。 ・ 様々な実践内容を聞くことで、視野が広がった。身近に尋ねることができる人がいるので、安心感がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ この研修が、若い先生が学びたい、分かりたいと考えるきっかけとなってくれればと思う。 ・ 校区内の小学校での体験勤務は、今、中学校で実践していることを自分の中でリフレクションしているようだ。 ・ 私たちは、若い先生たちの経験や知識を高めるパイロット的役割になればと思う。次年度、どのように研修を組んでいくか考えている。 ・ 新規採用時に、離島に採用になった。4月から分からないことばかりで、近隣の先生に聞いていた。その時、1人でなくてよかったとつくづく感じた。こうした研修は、その時のことと重なって感じる。 ・ 指導となると多忙感を感じる部分がある。

資料 2 メンター方式の考え方を取り入れた鳥栖西中学校区小・中学校養護教諭連携研修の感想

感想から、メンター方式の考え方を取り入れた鳥栖西中学校区小・中学校養護教諭連携研修には、次のような成果があったと考えます。

- ・実践期養護教諭が、自分自身の実践を振り返る機会を得ることができた。
- ・実践期養護教諭は、課題としていた授業実践によって学校の課題に実際的に対応できる知識・技能を習得し、授業づくりに対する学びの意欲を高めることができた。
- ・実践期養護教諭は、貢献期・充実期養護教諭が行う実践の紹介を通して、健康相談を行う実践力を高めることができた。
- ・実践期養護教諭と貢献期・充実期養護教諭とのコミュニケーションが円滑になり、信頼関係を深めることができた。

以上のように、メンター方式の考え方を取り入れた鳥栖西中学校区小・中学校養護教諭連携研修は、実践期養護教諭にとって、課題解決に向けて意欲的に学んだり、貢献期・充実期養護教諭との関係性を強めたりする体制づくりとして有効であったと考えます。